

株主の皆様へ

第15期報告書

2007年10月1日～2008年9月30日

証券コード：3814

企業理念



アルファクス・フード・システムは、「食文化の発展に情報システムで貢献する」ことを経営理念に、私たちが提唱する「食材ロスカット」「人件費ロスカット」を実現させる開発方針のもと、外食チェーン企業の情報システムインフラ企業となることを目指しています。

社名の「アルファクス」とは、ギリシャ語で、物事の始まりを意味する「α」と、限りない可能性を秘めた「X」を結びつけた造語です。ご提案するソリューションの最初から最後まで、責任をもって取り組ませていただくという私たちの姿勢を示すものです。

この社名に、フードサービス業界専門の情報システム企業として、お客様とともに、業界発展のお手伝いをしたいという熱い思いを込めています。



外食チェーン情報システムの「ソフト」から「ハード」までの、主要3事業

ASPサービス事業

外食企業様に対して、売上分析・経営指標・在庫ロス分析・勤怠シフト管理・受発注・C K物流・財務連動システムまでの各基幹業務システムをご提供しています。

外食企業様の本部系基幹業務の精度を高めるために必要な店舗システム機器である「POSシステム」及び「オーダーエントリーシステム」の自社開発を行なっています。

システム機器事業

周辺サービス事業

外食企業様向け「ワンストップサービス」の一環として、外食関連の広範囲なWebサービスのご提供や、システム機器などの保守・メンテナンスを行なっています。

アルファクス・フード・システムは、創業以来一貫して、食材／人件費ロス管理を中心とした、経営コストのロスを徹底追求することのできる「基幹業務システム・サービス」の提供を行なっています。

そして、外食チェーン企業の情報システムインフラ企業となることを目指しております。

株主の皆様へ



株式会社アルファクス・フード・システムは、
平成20年度をもちまして
上場3周年を無事迎えることができました。

代表取締役社長 田村隆盛

お客様である外食企業様の「最大利益」「経営効率アップ」のため、
日々「情報システム・サービス」の創造に取り組んでおります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2008年9月期（第15期）は、外食産業において非常に厳しい年となりました。

「原材料高騰」「有害物質混入食品」等の出来事が相次ぎ、当社の主要顧客である大手外食チェーン企業様の業績に多大な影響があり、これに伴い投資計画の急遽先送りなどが相次いだことが当社の業績にも影響し、当期は減収減益となりました。

この結果につきましては率直に申し訳なく思っており、株主の皆様には、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

しかしながら第15期も、主力の「ASP基幹業務サービス事業」は、既存顧客の出店や新規の大手外食チェーンへの納品が順調に進み、期初と比較して950店舗増と順調に拡大いたしました。

当期、外食企業様の設備投資の先送りなどで影響

を受けました、システム機器販売事業の製品である「オーダーショット」の受注につきましても、大手外食チェーン中心に一段と進んでおり、来期に向けて業界シェアを更に拡大できるものと確信しております。

当社は専門会社として国内で唯一、外食業界情報システムの両輪とされる「店舗情報システム機器」と「本部基幹情報システム」を1社で手掛けており、そのコストパフォーマンスで、引き続き高い評価をいただいております。

これからも謙虚さと誠実さを忘れず、日々お客様の声に耳を傾け、外食産業の情報システムインフラとなるようサービスの改善に努め、株主・投資家の皆様のご期待にお応えしていく所存でございます。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

業界で唯一、店舗在庫ロス分析／削減・自動発注業務をフルサポートしています。

AFS「本部系基幹業務サービス」は、業界システム完成基準として、高い評価とトップシェアを保っております。

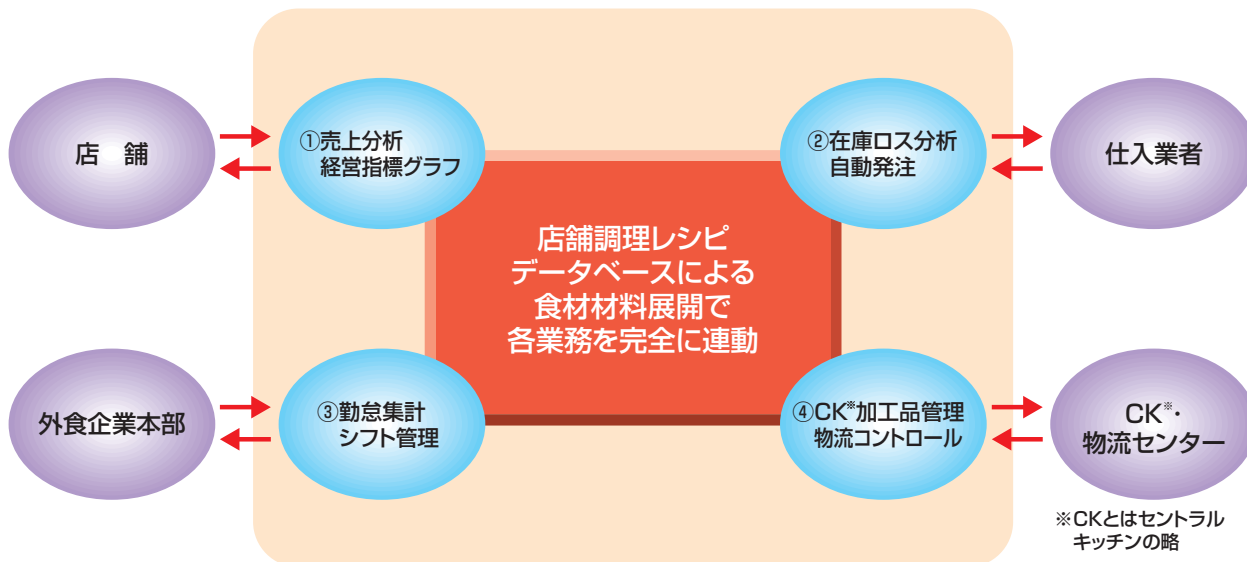
■国内で唯一、「店舗システム機器」から「本部系基幹業務システム」を1社で手掛けております■

20年以上の蓄積した人財を含めたノウハウにより、他社を圧倒する豊富なライブラリーで外食企業のお客様の長年の夢を本部系基幹業務システムで実現してきた当社ですが、2005年より外食情報システムで不可欠な「店舗システム機器」であるオーダーエントリーシステム分野の画期的製品「オーダーショット」を投入しました。

外食業界専門企業として1から抜本的に見直した製品だけに、従来製品には全く無かった使い勝手がうけて、大手外食チェーンを中心に続々と導入が進んでおります。

これからも、業界のリーディングカンパニーとして既成概念にとらわれることなく斬新で画期的な製品を投入していきたいと考えております。

基幹業務サービス構成図



「ロス管理を前提とした最大利益追求」というアーキテクチャこそが当社の哲学であり、いつの時代にも、‘食’マーケットから求められる普遍的ニーズです。

現在のASP基幹業務サービスには、1987年に‘食’企業専用として発売されたアプリケーションパッケージ「飲食店経営管理システム」のロス管理を前提とした最大利益追求というアーキテクチャが根底にあります。

この設計思想こそが当社の哲学であり、いつの時代にも、‘食’マーケットから求められる普遍的ニーズです。

これを元に21年間、真摯な姿勢で研究・開発を積み重ねてきたことにより、当社の持つライブラリ数は、実に1000ライブラリを超え、お客様の「夢」の実現へと繋がっております。



ロス管理／排除を前提とした
最大利益追求の設計思想

研究・開発
人材・サポート

1000ライブラリ以上

- 売上分析／経営指標・グラフ
- 食材在庫ロス分析／平均原価管理
- 予算管理
- 勤怠集計／シフト管理
- 予測発注・自動発注業務
- 店舗損益管理／日次決算
- 顧客管理
- 予約・台帳管理
- CK加工品管理
- 物流センター業務
- サプライチェーンマネジメント
- 後方業務（給与・人事・財務）データ連携 etc…


特集

時代を先取りした店舗情報システム機器

「 FOOD GENESIS 21
「オーダーショット」が、複数の技術特許を取得いたしました。

発売当初より、'新時代・新発想のOES'というキャッチフレーズで、群を抜く操作性と拡張性で他社を圧倒した「 オーダーショット」でしたが、当期、この技術性に対し、正式に特許庁より複数請求項目の技術特許を取得いたしました。（取得日：2007年10月19日 特許番号：4028536号）

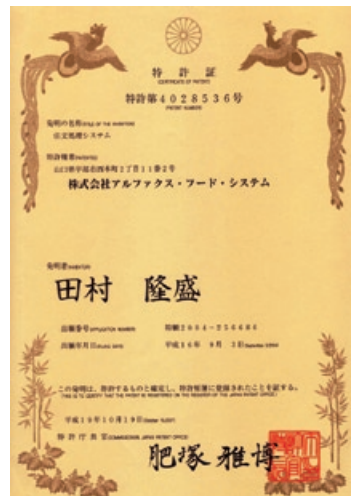
従来のオーダーエントリーシステムは、入力端末の操作部分に紙シートが採用されており、店舗で頻繁に発生するメニュー変更において、紙シートの差替えをはじめとする面倒なメンテナンス作業を必要としました。その上、作業終了後に設定内容にミスがあったような場合には、再度、全ての工程を最初からやり直さなくてはならないため、店舗においてとても大きなストレスとなっておりました。

「 オーダーショット」は、この煩雑な処理を、

- ①業界初の大型カラー液晶タッチディスプレイ採用により、紙シート不要、差替え不要を実現。
- ②独自の無線通信技術で、全入力端末に一齐同時配信を行ない、メンテナンス作業時間を大幅に短縮。

更に、高機能CPUの採用と大型カラー液晶の特長を活かし、お客様毎のフレキシブル操作画面、店内のフロアレイアウト&空席表示、栄養チャート表示、メニュー解説、アンケート集計機能など、従来には全く無かった（できなかった）機能を数多く設け、他社が追従することのできない独創性で、多くのお客様よりご支持いただいております。

「 オーダーショット」は、1台8役でお客様の夢を実現



特許証



一般オーダー



棚卸・発注・検品



テーブルオーダー



勤怠打刻



トレーサビリティ



アンケート入力

事業の概況

経営成績

売上高		12.9%DOWN
第14期	第15期	
2,053 百万円	1,789 百万円	

営業利益		93.3%DOWN
第14期	第15期	
403 百万円	26 百万円	

経常利益		95.7%DOWN
第14期	第15期	
399 百万円	17 百万円	

当期純利益		98.1%DOWN
第14期	第15期	
193 百万円	3 百万円	

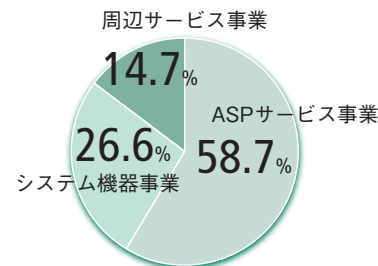
当期におけるわが国経済は、米国のサブプライムローンに端を発した金融不安、株価の低迷、原油価格の高騰及び急激な円高による企業収益の伸び悩み等により景気の下ぶれリスクが高まり、設備投資や個人消費の引き締め感が始まる景気拡大の減速感が強まりました。

当社の主要販売先である外食産業におきましては、ガソリン価格高騰の影響による郊外店舗の冷え込み、中国製食材の問題、原材料の高騰及び消費者の生活防衛姿勢の強まり等、厳しい環境が続く、設備投資計画の見直し等が生じました。

以上のような経済環境において、引き続き大手外食チェーンを中心に主力サービスである「ASP基幹業務サービス」、当社企画の「オーダーショット」を中心とした営業活動を行ない、大型展示会への出展及び販売提携先との連携強化を図りながらシステム導入及び既存顧客のサービス拡充を行なってきました。

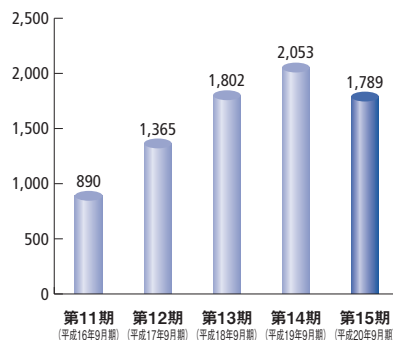
その結果、ASP基幹業務サービスの特徴である「ロス管理」が、コスト管理を高める顧客のニーズに合致したものの、外食産業を取り巻く外部環境が大変厳しく、大型案件の受注の計画が来期にずれ込んだもの及び先送りとなったものがあり、当期における売上高は1,789,240千円（前期比12.9%減）となりました。利益面に関しては、収益性の高いASP基幹業務サービスの月額サービス料が916,963千円（前期比21.4%増）と順調に推移しましたが、ASP基幹業務サービスの新規導入が来期にずれ込んだもの及び先送りとなったものがあつたことに加え、データセンター強化を前倒しで実行しました。また、名古屋営業所の開設及び営業・サポート部門の人員増加も実行いたしました。その結果、営業利益26,945千円（前期比93.3%減）、経常利益17,232千円（前期比95.7%減）、当期純利益3,774千円（前期比98.1%減）となりました。

事業別売上高構成比率（第15期）



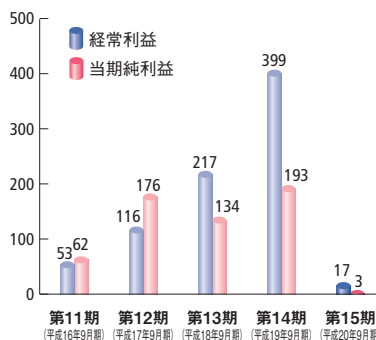
売上高

(単位：百万円)



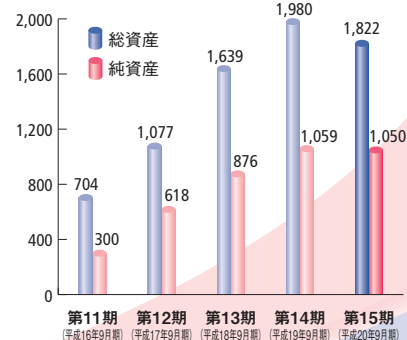
経常利益・当期純利益

(単位：百万円)



総資産・純資産

(単位：百万円)



財務諸表

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当事業年度 (平成20年9月30日現在)	前事業年度 (平成19年9月30日現在)	科 目	当事業年度 (平成20年9月30日現在)	前事業年度 (平成19年9月30日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	1,498,293	1,751,074	流動負債	765,438	916,033
現金及び預金	570,654	814,603	買掛金	107,965	67,635
売掛金	280,833	487,312	短期借入金	550,000	550,000
商品	566,031	420,773	未払金	20,687	43,825
貯蔵品	826	658	未払費用	8,091	9,613
前払費用	60,720	13,342	未払法人税等	2,837	138,183
繰延税金資産	22,931	21,545	未払消費税等	—	26,400
その他	2,446	3,364	預り金	9,480	11,832
貸倒引当金	△ 6,151	△ 10,526	前受金	50,874	48,311
固定資産	323,922	229,535	賞与引当金	14,863	19,818
有形固定資産	143,806	109,342	その他	638	412
建物	14,106	13,526	固定負債	6,071	5,444
工具器具備品	79,271	75,387	退職給付引当金	5,486	3,554
土地	20,429	20,429	その他	584	1,890
建設仮勘定	30,000	—	負債合計	771,510	921,478
無形固定資産	10,157	35,273	純資産の部		
ソフトウェア	7,712	32,828	株主資本	1,050,705	1,058,584
電話加入権	2,445	2,445	資本金	534,730	527,074
投資その他の資産	169,958	84,918	資本剰余金	143,599	143,599
投資有価証券	—	1,110	利益剰余金	373,250	387,910
出資金	119	10	自己株式	△ 874	—
長期前払費用	1,036	857	評価・換算差額等	—	546
敷金保証金	14,921	10,182	その他有価証券評価差額金	—	546
繰延税金資産	40,276	45,922	純資産合計	1,050,705	1,059,130
長期未収入金	167,622	78,477	負債・純資産合計	1,822,216	1,980,609
その他	2,210	1,965			
貸倒引当金	△ 56,229	△ 53,606			
資産合計	1,822,216	1,980,609			

損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	当事業年度	前事業年度
	（平成19年10月1日から 平成20年9月30日まで）	（平成18年10月1日から 平成19年9月30日まで）
売上高	1,789,240	2,053,938
売上原価	1,076,166	1,069,645
売上総利益	713,074	984,293
販売費及び一般管理費	686,129	581,284
営業利益	26,945	403,008
営業外収益	1,738	5,302
営業外費用	11,451	8,466
経常利益	17,232	399,844
特別利益	5,223	—
特別損失	10,034	43,594
税引前当期純利益	12,421	356,249
法人税、住民税及び事業税	1,521	192,047
法人税等調整額	4,623	△ 29,759
過年度法人税等	2,501	—
当期純利益	3,774	193,961

キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	当事業年度	前事業年度
	（平成19年10月1日から 平成20年9月30日まで）	（平成18年10月1日から 平成19年9月30日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 188,000	214,464
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 44,520	50,863
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,427	14,193
現金及び現金同等物の増減額	△ 243,948	279,521
現金及び現金同等物の期首残高	814,603	535,081
現金及び現金同等物の期末残高	570,654	814,603

株主資本等変動計算書 当事業年度（平成19年10月1日から平成20年9月30日まで）

（単位：千円）

	株主資本						評価・換算差額等				純 資 産 計	
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			自 己 株 式	株 資 合 本 本 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計
		資 準 備 金	資 剰 余 金 合 計	本 金 計	そ の 他 利 益 剰 余 金 繰 越 利 益 剰 余 金	利 剰 余 金 合 計	益 金 計					
平成19年9月30日 残高	527,074	143,599	143,599	387,910	387,910	—	1,058,584	546	546	1,059,130		
事業年度中の変動額												
新株の発行	7,656						7,656			7,656		
剰余金の配当				△18,435	△18,435		△18,435			△18,435		
当期純利益				3,774	3,774		3,774			3,774		
自己株式の取得						△874	△874			△874		
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）								△546	△546	△546		
事業年度中の変動額合計	7,656	—	—	△14,660	△14,660	△874	△7,879	△546	△546	△8,425		
平成20年9月30日 残高	534,730	143,599	143,599	373,250	373,250	△874	1,050,705	—	—	1,050,705		

会社概要・株式の状況

■会社概要 (平成20年9月30日現在)

社名	株式会社アルファクス・フード・システム (ALPHAX FOOD SYSTEM CO., LTD.)
創業	平成5年12月9日
資本金	5億3,473万300円
代表者	代表取締役社長 田村隆盛
事業内容	外食企業向け 1.ASP方式による各種イントラネット基幹業務サービス 2.システム機器の企画・販売 3.ハードウェア・ソフトウェアの全国メンテナンスサービス 4.Webによる業界専用ポータルサイト (外食総合eマーケットプレイス)の運営・提供
本社	〒755-0052 山口県宇部市西本町二丁目11番2号 TEL(0836)32-5161(大代表)FAX(0836)32-2292
データセンター	〒755-0052山口県宇部市西本町二丁目14番30号
従業員数	102名

■役員一覧 (平成20年12月26日現在)

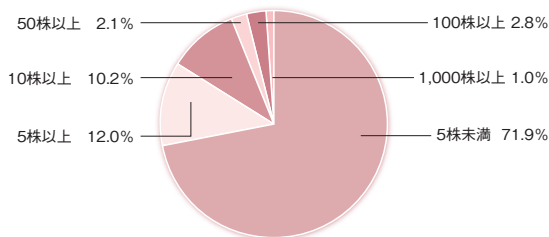
代表取締役社長	田村隆盛
取締役	宇多田純三
取締役	松崎常男
取締役	福田省吾
取締役	河原克樹
常勤監査役	溝部和昭
監査役	古閑謙士
監査役	堀江義光

■株式の状況 (平成20年9月30日現在)

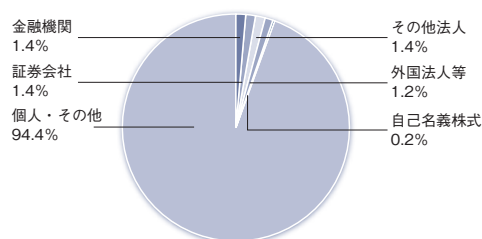
発行可能株式総数	91,704株
発行済株式の総数	24,976株
株主数	424名
大株主	

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
田村隆盛	13,357	53.5
鎌田英哉	4,500	18.0
加藤繁夫	1,174	4.7
根津孝一	695	2.7
田村美代子	603	2.4
藤井裕史	404	1.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	326	1.3
インヴァスト証券株式会社	293	1.1
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505025	276	1.1
木山貴英	236	0.9

■所有株式数別株主数比率



■所有者別株式数比率



アルファクス・フード・システムの主要製品

全国の外食産業 7,395[※] 店で活躍しています!

※ASP契約店舗数を含む



複数の店舗業務をカバーするマルチ多機能端末

入力端末となる「Handy shot」は、1台8役（一般オーダー、棚卸、発注、検品、テーブルオーダー、勤怠打刻、トレーサビリティ、アンケート入力）をこなすマルチ多機能端末です。



FOOD GENESIS 21
オーダーショット

Handy shot

フード業界専用POSレジスター

面倒なメニュー変更もオンラインでAFSよりメンテナンスいたします。どこまでも、現場の視点に立ったPOSレジスターです。



FOOD α 3000

- 「オーダーショット」は、マルチ多機能端末「Handy shot」をはじめ、店舗でのオーダー業務に最も重要視される操作性、レスポンス、メンテナンス性という基本性能を従来のものより飛躍的にレベルアップさせ、オーダーエントリーシステムの新時代を切り拓きました。これからも「オーダーショット」は、新しい可能性の追求とともに一層、製品の充実を図ってまいります。
- 「FOOD α 3000」は当社がこれまでに蓄積してきたPOS会計システムの技術資産と現場のニーズを結集したフード業界専用POSレジスターです。会計に必要な基本機能に加えて、オーダーエントリーシステム、周辺機器との連動、当社ASPサービスとの連携が可能です。

株主メモ

事業年度 10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会 事業年度終了後3カ月以内
上記基準日 9月30日
剰余金の配当基準日 毎年9月30日及び中間配当の支払いを行なう時は3月31日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話0120-232-711（フリーダイヤル）
公告方法 電子公告により行ないます。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載して行ないます。
なお、電子公告記載の当社ホームページアドレスは以下のとおりです。
<http://www.afs.co.jp/>

株主の皆様へ当社の各種情報を提供する
ホームページを開設しています。
<http://www.afs.co.jp/>

当社のホームページでは、株主・投資家の皆様向けのIR情報をはじめ、最新の企業活動をお知らせするニュースリリース、新製品に関することなど、さまざまな情報を提供しています。



株式会社 **アルファクス・フード・システム**
ALPHAFS CO., LTD.

〒755-0052 山口県宇部市西本町二丁目11番2号
TEL (0836) 32-5161 (大代表) FAX (0836) 32-2292